

Mobility

今、モビリティの世界は、コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化といった「CASE」を軸に100年に1度と言われる大きな変革期を迎えています。この変革に対して富士通は、クラウド・IoT・セキュリティに代表される先端テクノロジー分野でのアドバンテージを武器に、グローバル展開を睨んだ国内外の企業との協業ビジネスモデルの構築「Co-creation」を推進し、ビジネス展開します。

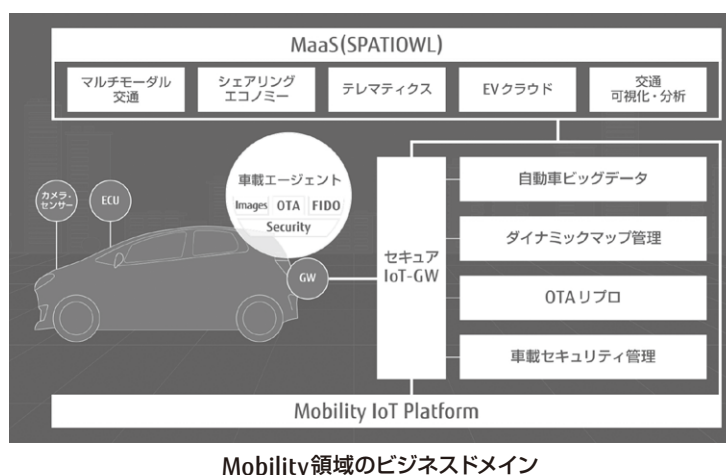
■ 主な製品またはサービス体系

Mobility IoTプラットフォーム

- 自動車メーカーを中心としたコネクテッド基盤として、大量データをセキュアかつ効率的に収集し、自動運転に必要な高精度地図の管理・配信や車載ソフトウェアの更新など新たな価値・サービスを提供。

Mobility as a Service「SPATIOWL」

- 自動車を含むあらゆるモビリティと繋がり、公共交通の効率化、都市交通インフラのスマート化などを目指したクラウドサービスを提供。



■ 最新トピックス／テクノロジー

FOMM社と富士通、新たなモビリティ社会の実現に向けた協業を開始

- EVの走行状況やバッテリー利用情報、交換バッテリーの在庫情報などを統合的に管理し、運用支援を行う機能をもつFOMM社のBattery Cloud Serviceの実現に向け、富士通の位置情報活用クラウドサービス「FUJITSU Mobility Solution SPATIOWL」を適用し、EVを利用するための情報・電気エネルギー供給の環境を新たなモビリティ・インフラとして実現し、普及させていく。

スポーツ

富士通は、日本のスポーツ産業の中長期的な発展にはICTの貢献が非常に重要と考え、3つのポイントに着目しました。1.AIやアナリティクス、画像分析といったICTを活用した、選手、チームの強化。2.スタジアムなどのエンターテインメント性をデジタル技術を活用しファンに提供。3.デジタルマーケティングを活用した事業の拡大。これらの取り組みを2020年以降も見据えた大きなビジネスとして育てていきます。

スポーツセンシング／AI

国際体操連盟および日本体操協会と共同で体操競技の採点支援システムの研究開発に取り組んでいます。2018年10月の体操の世界選手権において実用テストを行い、2020年までに実用化を目指します。

スタジアム／アリーナソリューション

建築改修が進むスタジアムやアリーナに富士通のICTを導入し、スポーツ観戦を盛り上げる仕組みを導入していきたいと考えています。

スポーツデジタルマーケティング

競技者やファン、経営などの情報を一元管理し、ファン向けのサービス向上や他産業へのビジネス展開につなげていきます。

